

## ◆ 今週のコメント

- ・手足口病の定点当たり報告数は0.78(32例)で、先週の0.63より多く、過去5年平均値(0.12)を大きく上回る値となっています。過去5年間の推移をみると、初夏を中心に流行のピークが見られますが、本年は、第2週以降多い状態が続いています。年齢階級別にみると、1歳(15例)が最も多く、次いで2歳(9例)となっており、1歳と2歳で75.0%を占めています。
- ・レジオネラ症の報告が1例で、第4週以降報告が続いており、本年の累積報告数は6例です。昨年の報告数も、本市、全国ともに顕著に多くなっています。
- ・腸チフスの報告が1例で、本年初めての報告です。平成11年4月に全数報告の対象となってからの年報告数は、平成11年 なし、平成12年 2例、平成13年、14年 なし、平成15年 5例、平成16年 3例、平成17年 1例、平成18年、平成19年 なし、となっています。

## ◆ 今週のトピックス:〈後天性免疫不全症候群〉

- ・平成19年10月から12月末までの3ヶ月間で、エイズ患者 3例、HIV感染者 8例の計11例の報告があり、平成19年の年報告数は、エイズ患者 7例、HIV感染者 15例の計22例となっています。詳細はトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・二類:結核 4例(喀痰塗抹陽性 なし)【1月以降の累積報告数 42例(喀痰塗抹陽性 12例)】
- ・三類:腸チフス 1例
- ・四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ <sup>※</sup>	インフルエンザ	8.38	570
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.76	277
	② 手足口病	0.78	32
	③ 水痘	0.76	31
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.68	28
	⑤ 突発性発しん	0.44	18
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
インフルエンザウイルスAH1(1)	かぜ症候群(第5週)	NP	ノロウイルスGII(1)	感染性胃腸炎(第5週)	FC

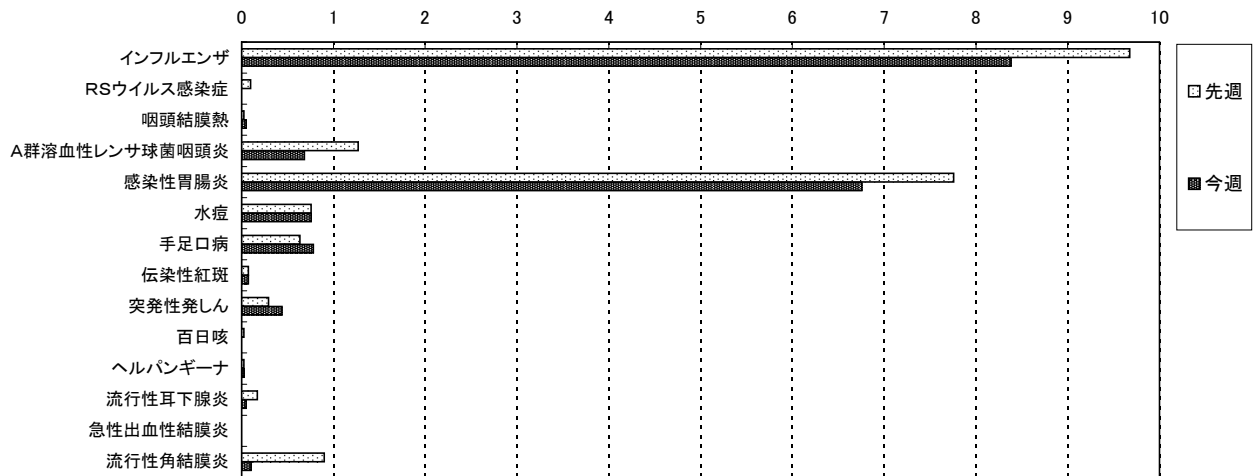
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈後天性免疫不全症候群〉

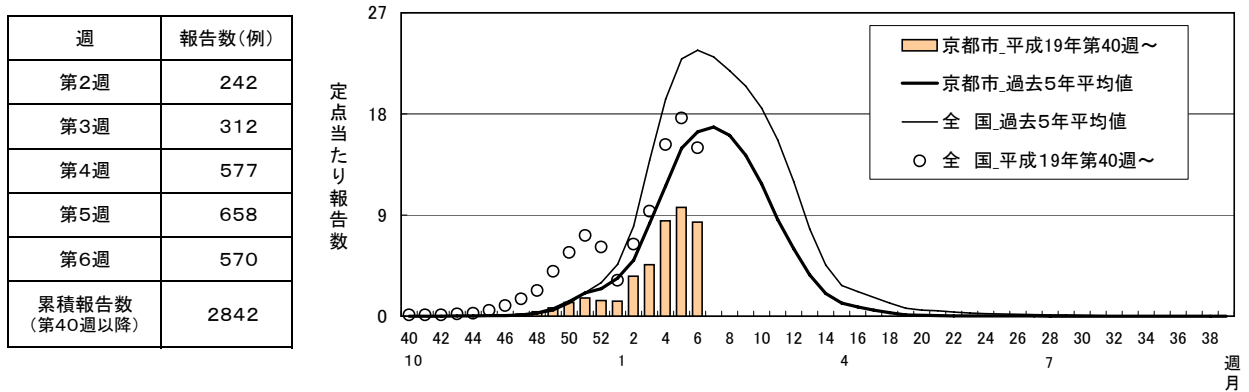
(注)京都市のデータは、平成20年2月15日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第6週)と先週(第5週)の定点当たり報告数の比較

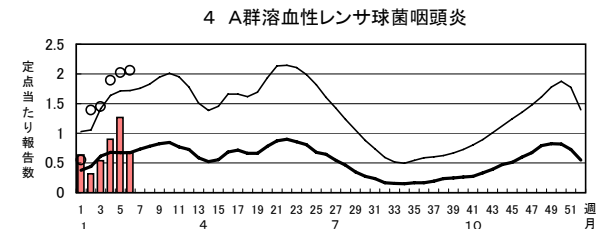
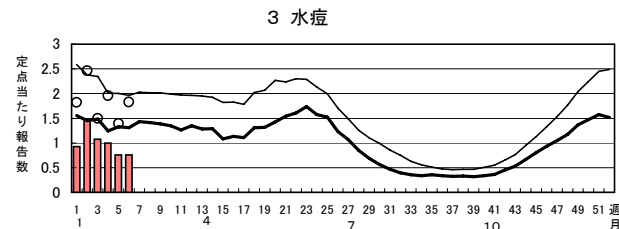
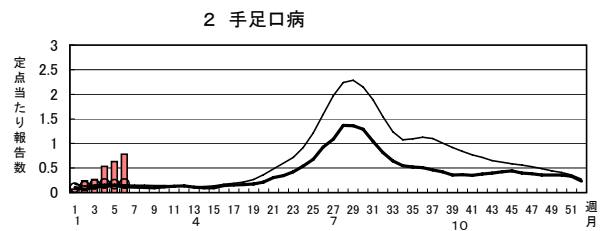
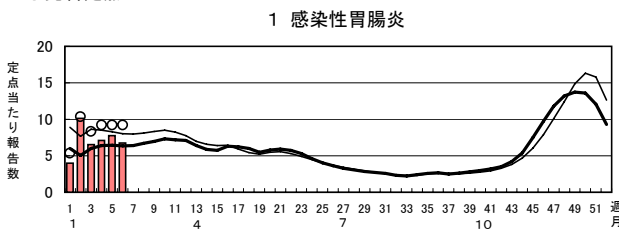


## 2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

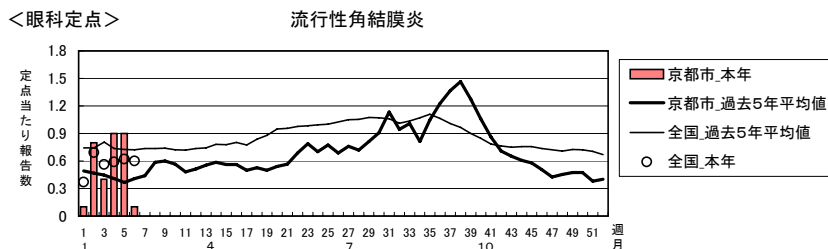


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 今週(第6週)のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成19年10月から12月末までの3ヶ月間で、エイズ患者 3例、HIV感染者 8例の計11例の報告があり、平成19年の年報告数は、エイズ患者 7例、HIV感染者 15例の計22例となっています。

これにより、平成19年の年報告数は、平成11年以降でみると、平成18年の25例に次いで多い数となっています。

平成19年の年報告数(22例、男19例、女3例)をエイズ患者、HIV感染者別にみると、以下のとおりです。

年齢階級別では、エイズ患者は40歳代が最も多く、HIV感染者では30歳代が最も多くなっています。

推定感染地域別では、エイズ患者は全て国内で、近隣(京都府6例、大阪府1例)での感染となっています。HIV感染者も15例中12例が国内(全て京都府)での感染ですが、国外での感染も3例あります。

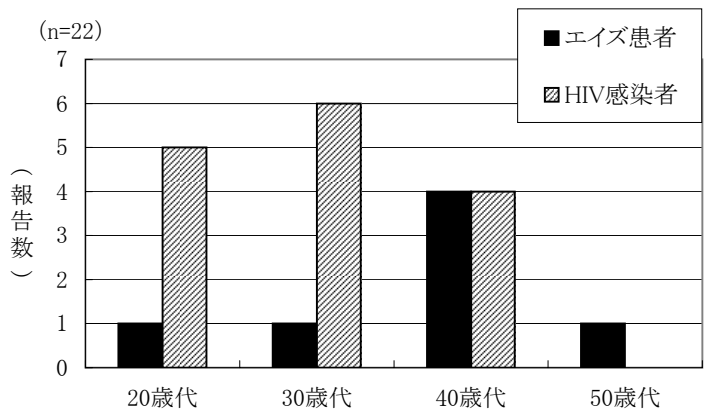
推定感染経路別では、エイズ患者では、異性間の性行為による感染が最も多く、HIV感染者では、同性間で最も多くなっています。また、職務上での暴露による感染の報告がありますので、特に医療に従事される方は、医療事故による感染を防止するため、針刺し事故防止マニュアル等の整備を確認し、万一の事故に対処出来るよう、日頃から感染防止対策を徹底しておいてください。

なお、本市では、市内各保健所で平日検査を行うとともに、夜間、休日においても検査を行っています。詳細については、地域医療課のホームページをご覧ください。

年次別報告数の推移

報告年	エイズ患者	HIV感染者	合計
平成11年	2	3	5
平成12年	3	3	6
平成13年	2	4	6
平成14年	4	5	9
平成15年	2	9	11
平成16年	2	19	21
平成17年	3	6	9
平成18年	8	17	25
平成19年	7	15	22
報告数合計	33	81	114

性別年齢階級別報告数(平成19年)



平成19年の年報告数

(型別, 推定感染地域別, 推定感染経路別)

		京都市(n=22)	
		エイズ患者	HIV感染者
性別	男	6	13
	女	1	2
推定感染地域	国内(全て近畿圏内)	7	12
	国外	0	3
推定感染経路	性行為(異性)	4	2
	性行為(同性)	0	9
	その他	1	2
	(内訳) 血液製剤(海外での使用)		1
	職務上の暴露	1	1
	不明	2	2

推定感染経路別年次別報告数

(平成11年~平成19年)

